

西東三鬼のふるさと俳句投句函

平成三十年四月締め 入選句

一般の部 特選

天守より見下ろす花の中に妻
濡れてゐるなり少年と春の橋

津山市 岡田 邦夫
岡山市 小西 瞬夏

一般の部 入選

告知待つ待合室の寒椿
石段の高きや雪の津山城
春らしき朝となりけり軍手持つ
ヘルパーの素顔に笑くほ梅香る
天守跡風吹いており名草の芽
女院塚に侍る野良猫春まぢか
声上げて帽子押さえる春一番
穴を出し蛇と目の合ふ三鬼の地
風光る園に水音絶え間なし
初蝶の渡る八つ橋渡りけり
鉄砲隊桜城趾の揺れてをり
城跡の桜をもつて天となす
胎の子もバギーの児も今桜びと
しろした こずかた
城下に不來方を待つ雪灯り
花屑や退屈さうな昼の月
初燕津山城跡を登りきて

津山市 保田 基
津山市 中島 正和
津山市 中村 友香
津山市 難波 澄子
鏡野町 高原 喜久子
津山市 林 勝義
津山市 井上 典子
兵庫県 山寄 緑
岡山市 花房 典子
津山市 妹尾 武志
倉敷市 綱島 美真理
津山市 井手 正子
広島県 大塚 文枝
岩手県 久米本 謙一
兵庫県 木村 孝敏
兵庫県 松井 ゆう子

ジュニアの部

てつどうかんおおきなきてきびつくりだ
スケートでしゅーしゅーすべるのたのしいな
冬の朝津山の城からでる日の出
じわじわと少しずつ咲く桜かな
鶴山の白壁映える淡桜
津山城さくらをいっばいありがとう
花びらが散るたびに人は変わっていく
散るさくら青空の下ゆきのよう
車窓から夕日眺むる日永かな

兵庫県 岡田 七海
兵庫県 岡田 咲葉
津山市 藤本 晴輝
兵庫県 辰巳 穂高
大阪府 和田 輝安
香川県 前田 ともき
久米南町 富田 やつち
福岡県 熊谷 涼那
福岡県 菊地 春菊

(今回投句数 三三三六句)